# 「オ父サン」の機能って、何でしょうかねぇ～？

障害児の親の役割について講話する機会が度々あるが、母親の役割に関しては「オ母サン（「雑学ＢＮ」のメル友・コメント等関係（Ⅳ）、2007.06.12.「なぜ『オ母サン』という書き方をするのですか？」：参照）」に基づいて話す事は出来るが、父親の役割をどう話せばいいのか、未だ迷うことがある。

近々、「障害児（者）の親としてできること」と題する講話の機会を得たので、この際と思い、「オ父サン」の役割についてチャレンジしてみたので、ご講評の上アドバイスをいただきたい。

一般的には、父親が会社員であれ事業主であれ仕事が忙し過ぎる場合には、障害児の育児の負担は全面的に母親にのしかかりがち。
父親がケアや家事を分担協力して母親を精神的に支えないと、夫婦関係にも波状が生じる恐れもある。

仕事上、具体的に育児の協力・分担が十分出来ないとしても、まずは家庭を経済的に不安が生じないようにすることが、まずは大事な「オ父サン」のような気がする。
その上で、 母親が「オ母サン」の機能を十分に発揮できるように、母親を精神的に支え、また社会資源活用等の環境作りでないだろうか。
更に、きょうだい等を含め、家族とはそれぞれが居てこそ成り立つものであるということを日々語り伝えるという、経済的にも精神的にも「大黒柱」、というよりは、日頃は目立たない縁の下で大黒柱を支える「礎石」のような機能があるような気がする。

子どもが幼少の頃には、父親として直ぐに子どものために何か出来る事はないかと性急に事を求めて思い詰めず、子どもが成長するに従い地域・社会との関係において、必ず父親の出番が来るのでそれまで待つ余裕も必要な気がする。
象徴的な実例で云えば、ある父親は、卒後のわが子たちのために勤務先の社長に直談判して特例子会社を作ったという話、また、親たちの声を取り纏め、法や制度の整備に至った話もある。

やはり、「オ父サン」は、社会の荒波から家族全員が乗っている船をどう守り、また、社会という大海をどう航海して行くかの家族への航路の選択肢を提示し、家族がどの航路を選択し互いに輔け合いながら航海するかのコーディネートではないだろうか。
もちろん、航路図作りは、仕事にかこつけて逃げることなく、家族の日頃の営みに出来うる範囲内で参加・協力していないと、航路が見えてこないことはいうまでもない。

阿部幸泰　　（2008 年 2 月 19 日　記）